

## 第12回エメックス会議 青少年環境教育交流宣言

### ～海洋について共に考え、共に行動する～

この宣言は第12回世界閉鎖性海域環境保全会議に参加した日本およびタイから参加した学生代表17名、教師達、そして科学者達の協力による努力の賜物である。今回の会議テーマは「復元力のある沿岸海域実現に向けて～統合的管理のための協力体制～」であり、これはまさに今日の私達が直面している状況と課題を基にしており、時宜を得たものである。私達は、政治的境界線によって分けられており、人々は異なる国々の市民として分割されている。しかし、究極的には一つの海によって繋がっている。私達を結びつけているものは環境課題、そして、未来に対して同じような不確実性を感じていることである。

私達は、学校や地域コミュニティ近辺にある沿岸域はありとあらゆるゴミで散らかっており、そのうちのいくらかは有害な物質でできているということに、随分前から気づいている。美観的な面で楽しめないだけでなく、汚染が少しずつ進むことは、経済的にも重要で危機にさらされている種を含め、海洋動植物にとっても潜在的に有害となる。私達は地上の活動が運河や河川にとって有害となる影響を誘発し、最後には海洋環境にとっても有害となることを理解している。私達は身体に摂取された汚染された食品の消化によって生じる生理学的影響、そしてそれが、私達の子供達にも影響しうることを考察している。私達はビーチに立ち、海で泳ぐことに不安を覚えている。私達の国の沿岸で起こっていることが他の国々の人達に影響を及ぼし得ること、そして、将来的に及ぼすであろうということを認識している。

私達が問題の要素であろうとなかろうと、私達は当然、解決策の重要な要素となっていきたい。私達の何人かは地域コミュニティで意識してもらうため海岸清掃や関連の研究プロジェクトを行い、何人かはかつてのビーチの姿を見ることに希望を抱いて、夏の太陽、冬の寒さに耐えながらゴミを一つ一つ拾っている。また、何人かはゴミを分別し正しく捨てるため、学校や地域コミュニティの運営組織を説得する試みを行っている。また、私達はリサイクルを行い、水産系副産物への転換やゴミ削減へと繋げる革新的手法を実験している。

私達の努力にも関わらず、時々、落胆したり、水を差されているように感じることもあり、折に触れて、私達の努力は無駄に終わることがある。一般社会において海洋ゴミの問題は広く認知されていない。問題が顕著で長く続いている場所では、少人数のグループが保全活動に関わっているに過ぎない。私達は、学校で環境教育を推進し、解決策の一部となるように一般社会に働きかけるため、個々のより大きなグループの間で意識付けすることが必要だと信じている。海洋ゴミは世界的な共同による対応を必要とする地球規模の環境課題である。世界中の人々が未来の世代のために、よりきれいな海洋環境、より質の良い生活を目指して同じ道のりを旅していかなければならない。

最後に、エメックス青少年環境教育交流プログラムの参加者を代表し、意見や視点を交わすことができるこのような機会をくださった会議主催者、そして運営に関わった各委員会に心から感謝申し上げる。ここ数日間で出会った人々や、共有した知識などから刺激を受けることができた。努力や試練を通じて、新たな希望や連帯感、そして、将来の課題に立ち向かうことに勇気が出てきたことを実感している。